

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療を受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



第68回国立病院総合医学会開会の様子

第47号 目次

院長の言葉	1
地域医療連携	2
戸塚区医師会会長挨拶	
特集 一医師が語る疾患一	3
第6回 漏斗胸 呼吸器外科編	
呼吸器外科部長 坂本 和裕	
行事紹介	4
戴帽式	4
第50回 楓葉祭	5
平成26年度QC活動奨励表彰	6
病診連携の集いと地域包括ケアシステム	7
年男・年女	8
連載 職員リレー紹介	9
第6回 児童虐待対策チーム (CPT: Child Protect Team)	

お知らせコーナー	10
栄養管理室より～食生活の注意事項～	
外来担当医表／編集後記	11

発行 月：平成27年1月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構
 横浜医療センター 広報委員会
 発行責任者：工藤 一大
 住所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電話：045-851-2621
 FAX：045-851-3902
 URL：http://www.yokohama-mc.jp



●当院携帯サイトはこちらから

院長の言葉

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年の干支は羊です。羊は群れをなすところから「家族の安泰」を表すとされ、いつまでも「平和」に暮らすことを意味しているそうです。平和な一年となることを祈りたいと思います。昨年の干支の午（馬）は縁起のいい動物で、午年は物事が“うま”くいく、幸運が駆け込んでくるといわれているようですが、皆様はいかがでしたでしょうか。

さて、当院は地域の災害時の拠点病院として、大災害時の医療体制の確保のための対応策を検討し、充実を図ってまいりました。国内では昨年も、集中豪雨や長野の地震や火山噴火など各地で自然災害が頻発しています。当院では、停電時の非常発電装置としては重油を使用する装置がありますが、さらに充実した非常発電装置として都市ガスによる発電装置を設置しました。これは非常用発電機兼用ガスコージェネレーションシステムと呼ばれ、発電+排熱利用でエネルギーを有効利用でき、契約電力を低減して電力料金を節約し、系統からの購入電力を削減する事ができ、節電に寄与するとされるものです。更に今年度は災害時における水確保のため、地下水を利用したいと考え、現在試験掘削工事を進めております。上手く井戸水が利用できるようになれば、災害時に電気、上水道の最低限の確保が可能となります。

日本の医療政策は、所謂団塊の世代が75歳を迎え高齢者が増加する2025年問題を見据え、大きく変わろうとしています。地域完結型あるいは地域包括ケアといわれる、地域で急性期医療から、亜急性期、回復期、慢性期、介護サービス、在宅医療などを、それぞれの施設の機能分化と密接な連携のもとに、充実させようとするものです。当院も地域の医療機関、介護サービ

ス部門などと益々連携を強化し、これに対応しようと努力しております。

昨年11月には、当病
院長 工藤 一大
院が会長施設となり第68回国立病院総合医学会をパシフィコ横浜を会場として開催いたしました。この学会は、全国143の国立病院機構の病院と国立高度専門医療研究センターや国立ハンセン病療養所の職員などが一堂に会し、互いの成果を発表し、意見を交換する年に一度の貴重な学術集会です。学会テーマを「次世代に継ぐ医療—元気で明るい医療の未来」とし、未来への希望をもって元気に医療に従事できるようにと考え、特別講演やシンポジウムを行いました。当日は天気にも恵まれ、約8000人が全国から集まり熱心に討議・討論を行いました。夜には横浜の街を堪能していただき、横浜市の経済に若干の貢献をしたのではないかと考えております。

当院の理念であります「患者中心の医療」、「地域完結型医療」、「地域で選ばれる病院」をこれまでも目指して努力してまいりましたが、これからも一層努力し、地域の関係医療機関や行政とも密に連携して「医療の質と安全」の向上に積極的に取り組んでまいります。今後も当センターへのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



病 診 連 携 施 設 紹 介

戸塚区医師会 メディカルセンター会長挨拶



戸塚区医師会
メディカルセンター会長
菊池 英弥

新年明けましておめでとうございます。

戸塚区医師会メディカルセンターの会長菊池です。

まず医師会の紹介をさせていただきます。

一言で言えば医師会とは区内で医業を営む診療所、病院、老健施設等の医師による職能団体で、その活動は多岐にわたっております。

日常の診療で区民への健康に寄与することは言うまでもなく、日々進歩する医療、医学への研鑽等の学術活動も大きな柱です。一方地域の方々への健康増進に会員が一致して横断的に公衆衛生活動をするのも大きな特徴です。

乳幼児検診、予防接種、保育園医、学校医として皆様にお目にかかったことがあるかと思います。これは区行政との密接な連携の下に行われ、休日急患診療所(原宿)、夜間急病センター(泉区・桜木町)、訪問看護ステーション(戸塚医会)、在宅支援事業も私どもの使命で、区内病院と診療所が連絡を取り合い協力して治療に当たることも医師会の活動として行われています(病・診連携)。また東日本大地震の時には区医師会は会員の医師を現地に派遣、救護に当たりました。このような広域災害にもそしてインフルエンザ、デング熱等伝染性疾患にも区内医療機関が組織的に事に当たれるのも医師会があ

ってこそです。

当横浜医療センターは戸塚区における高次医療機関、基幹病院で最先端の教育・研究・診療にご尽力なさっており、私ども地域医療機関にとっては心強い限りです。そして私も戸塚を含めた近隣地区医師会と医療センターは行政(区福祉保健センター、消防署、警察署)を交えて「地域医療支援病院運営委員会」を定期的に開催し病診連携の実を上げています。

医療は「手当て」。患者の苦痛・悩みを真摯に聞き、手を当てて診察・診療をする。これが当医師会のモットーです。日頃の皆様を良く知っている私ども地域医療機関を「係りつけ医」としてまずご利用ください。手当て医療を提供いたします。そして病診連携の下高次医療機関と協力して皆様の健康のお役に立ちたいと思っています。



特集－医師が語る疾患－

第6回 漏斗胸

呼吸器外科編 呼吸器外科部長 坂本 和裕



漏斗胸は前胸部が陥凹する胸郭変形で、そのほとんどが先天性とされ、発生頻度はおよそ1000人に一人、3：1の割合で男性に多いとされています。一般的に漏斗胸は自然に改善することはない、成長とともに陥凹が目立つようになり、左右非対称の陥凹に進んだりします。

小児期では陥凹が少し深めでも胸郭が柔らかいため多くは無症状ですが、なかには肺や心臓が圧迫されるために喘息様症状や繰り返す気道感染、不整脈、時に胸痛を訴える場合があります。また小児期に無症状でも成人を過ぎ胸郭が硬くなると前胸部圧迫感や胸痛を主訴に受診される方の割合が増えます。漏斗胸の方は呼吸機能上拘束性障害を来していることが多く、長時間の運動が苦手だったりします。また背筋を伸ばすと心臓が陥凹した前胸部と背骨の間に挟まれ心臓の圧迫感や機能低下を来すため、自然と楽な姿勢（猫背）をとってしまう傾向があります。

手術以外の治療では、前胸部を巨大な吸盤のような器具で吸引して持ち上げて矯正する方法（バキュームベル）があります。基本的に1回30分～1時間程度の装着を毎日2回継続する必要があります。この方法は胸郭の柔らかい幼児では有効ですが、特に成人では吸引した部分の皮下脂肪が厚くなり外見上は改善したように見えるものの骨性胸郭はあまり改善できず、中止後の再陥凹も多いためあまりお勧めしておりません。

手術治療としては、古くはラビッチ法や胸骨翻転術などがありましたが、大がかりな手術で傷も大きいため、ごく一部の施設でしか行われていませんでした。現在はナス法が代表的な手術術式で、患者の胸の形に合わせて形成した金属バーを前胸部胸腔内に数年間留置して骨性胸郭の矯正を行います。1998年に小児外科医ドナルド・ナス先生により発表され、その簡便さと良好な結果から、日本でも1999年頃から小児外科を中

心に広がり、その後形成外科や呼吸器外科でも広く行われるようになりました。当初は胸郭の柔らかい小児が手術対象とされていましたが、成人例でも良好な成績が得られるようになり適応年齢も広がりました。当院では4歳から最高齢は70歳の方まで手術されており、ほぼ半数が16歳以上の方です。ナス法は10歳前後が手術に最も良いとされていますが、成人になっても金属バーを2本留置することで十分な改善が得られます。また、高度の漏斗胸に関しましては幼児期での手術をお勧めする事もありますが、当科では手術は基本的に4歳以後としています。



これまでは漏斗胸の方が詳しい検査を受けることが少なかったため、心肺機能の異常についてはあまり知られていませんでした。しかしナス法が広まり、手術

される漏斗胸の方が増え、手術前の検査で前述の呼吸機能障害だけでなく、伝導障害、不整脈、僧帽弁逸脱症などの心機能異常も高頻度で見つかるようになりました。また心肺機能異常だけに留まらず、小学生高学年以後では胸郭の変形を気にするあまり引きこもりがちになったり、いじめの原因となったりすることで、精神的な発育にも影響がおよぶ可能性もありますので、小児の場合には症状がなくても早めに専門の病院を受診されることをお勧めします。

行事紹介

戴帽式

看護学校 教員 団 たまみ

1年生は大きな希望と少しの不安を胸に入学して7カ月が経ちました。人体の構造や機能、看護学の授業を通して、患者さんが安全・安楽に過ごすことができるようにという配慮に基づいた根拠があることを学び日々学習しているところです。

平成26年10月10日に第52回生の戴帽式が本校体育館にて行われ、厳粛な雰囲気の中今年度の戴帽生73名にナースキャップとエンブレムが授与されました。

戴帽式とは、看護師の象徴であるナースキャップを戴き、手にしたろうソクにナイチンゲール像の灯火を灯して、看護の道へ進む決意を新たにする儀式です。学生たちは、戴帽式に向けて誓いの言葉を考え、誓いの言葉の暗唱やナイチンゲール賛歌、聖火継承などの練習を係りの学生を中心に放課後の時間も使いながら、クラス全体で練習を行いました。

当日、戴帽の儀では緊張しながらも決意を新たにした学生たちの姿を見ることができました。そして厳かな聖火継承、息の合ったナイチンゲール誓詞の暗唱を行い、美しいハーモニーのナイチンゲール賛歌をピアノ伴奏で歌いました。その後、上級生の拍手により見送られ戴帽式は終了しました。これから看護師になるために必要な専門的知識や技術、態度について学んでいくこととなります。学生たちの灯した灯火を消すことのないように育て、次の後輩たちに受け継いでいけるように私たち教職員一同一層努力していきたいと思ひます。

皆様も52回生を今後も温かく見守りくださいますようお願いいたします



行事紹介

第50回 楓葉祭

看護学校 教育主事 渡邊 真弓

平成26年10月24日(金)・25日(土)に第50回楓葉祭を開催しました。10月24日(金)の前夜祭では、「フィジカルアセスメントの基礎知識と活用」というテーマで、東京医療保健大学(東が丘・立川看護学部)の准教授である山田巧先生に講演していただきました。25日(土)は一般公開で約150名の方々に参加いただきました。

「楓葉」とは、紅葉した楓(ふう)の葉、また、カエデの葉を意味しています。同窓会長さんにお聞きしたところ、看護学校開設時より、国立横浜病院の入り口に1本の大きな楓があったそうです。それまでも学校祭はおこなわれていましたが、昭和52年の学校祭から「楓葉祭」と命名されています。この楓の木は、新病院となった現在も大正消防署横に残されていますので是非ご覧ください。

第50回楓葉祭のテーマは「飛躍」です。メイン会場の体育館には、飛躍しているペガサスの絵を掲げ、お見えになった方々をお迎えしました。学生たちは笑顔でおもてなしができるよう心がけ、模擬店やバザー、学習展示、看護技術体験などの役割を果たしました。1年生の学習展示では、「『骨』に関する健康予防と対策・骨密度測定」を実施し、3年目の骨密度測定には約70名の方に参加いただきました。2年生は自治会の役員を中心に楓葉祭の企画・運営をおこないました。3年生は、実習で培った看護技術を活かし、来てくださった方に患者体験をしていただくことができました。学生たちは楓葉祭の企画・運営を通して、学年の垣根を越えて協力していくことで仲間との助け合い、団結力の大切さを再認識することができました。今後、それぞれの目指す看護師像への「飛躍」につながったと思います。

お越しいただいた皆様、ポスター掲示をこころよく引き受けて下さった地域の方々、バザー等にご協力いただいた病院職員の皆様に感謝申し上げます。



行 事 紹 介

平成 26 年度 Q C 活動奨励表彰

中心静脈カテーテル委員会「中心静脈カテーテル登録医制度の導入」

循環器部長 綱代 洋一

国立病院機構には「国立病院機構 Q C 活動奨励表彰」制度という制度があり、地道な業務改善活動に光をあて、その取組みを広く募集し、表彰・紹介しております。QCはQuality Control (質管理)の略です。国立病院機構におけるQC活動とは「品質管理の手法を用いて、医療サービスや医療安全などのテーマに、病院職員が自施設内の課題について質の向上を目指して自主的に取組む活動」をいいます。今年度、当院の「中心静脈カテーテル登録医制度の導入」における医療安全への取組みを、「国立病院機構 Q C 活動奨励表彰」で高く評価していただき、国立病院機構関東信越ブロックで最優秀賞、国立病院機構全国大会で全国優秀賞と、栄えある賞を受賞させていただきました。病院全体での取組みが公的に認められ、歓喜に満たされているところです。

当院は「安全で納得していただける患者中心の医療」をひとつのスローガンにしております。平成24年度には全国共同医療安全行動にも参加、その安全活動の一環として「中心静脈カテーテル登録医制度」を導入いたしました。中心静脈カテーテル登録医制度とは、ともすれば重篤な合併症を起こしうる中心静脈カテーテル穿刺・挿入を、ある一定以上の経験と知識を持つ登録医師が行う制度です。若い医師への教育制度の充実や、より安全な病院環境への整備も行い、「患者の皆様がより良い医療(今回は中心静脈カテーテルの穿刺・挿入)が受けられる」病院にむけ、病院一丸となって取り組んでおります。

皆さんが中心静脈カテーテル穿刺・挿入を受ける時には、胸のネームプレートに“登録医”シールを貼った医師が傍に必ずおります。技術のみならず、万が一の際にも適切に対処できる経験と知識を持った医師です。安心かつ信頼していただければと思います。

今回の受賞を励みに、安全管理室や感染制御チームとの連携も強化しつつ、引き続き、日々の研鑽と努力を一步また一步と積んでいきたいと思っております。皆さんにとってのより一層の安全かつ安心な医療を目指して。

※：国立病院機構は全国にある143病院を6つのブロックに分けています。関東信越ブロックには、1都9県、33病院があります。



行 事 紹 介

病診連携の集いと地域包括ケアシステム

地域中核連携室長 奥津 正仁

○病診連携の集い

平成26年12月11日、横浜医療センター附属横浜看護学校にて「病診連携の集い」を開催しました。この集いは、当院と連携していただいている地域の医療機関の先生方に、当院の事業内容等をご紹介します、より緊密な連携が取れるよう毎年開催しています。

今回は、「地域包括ケアシステムの構築に向けて 病院看護師の取り組み」と題して、講師の清田地域医療連携係長から当院の取り組み状況をご報告しました。その内容を一部ご紹介します。

○地域包括ケアシステム

現在横浜市では、第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定しています。その前段で行われた高齢者実態調査では、将来介護が必要になった場合のサービス利用と住まいの考え方について、65歳以上高齢者の約5割の方が、「介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」と答えています。

この市民の方々の意向を踏まえ、「高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される体制（地域包括ケアシステム）」を構築することが、同計画の柱とされています。

清田講師は、退院調整看護師としての日ごろの業務のなかで、入院患者さんが病院の医療から生活の場へいかに円滑に移行できるか、また、外来患者さんが「家での暮らし」をいかに続けられるか、に配慮しながら、在宅医療や在宅介護につなげていることをご報告しました。

○かかりつけ医ご紹介リーフレット

地域包括ケアシステムの中で、急性期病院である当院の主な役割は、在宅患者さんの病状が急変した際の受入と安定した際の円滑な退院支援です。そのためには、日ごろの病状や暮らしを把握されている地域のかかりつけ医の先生方との連携は欠かせません。

当院では、かかりつけ医がいない患者さんのために、外来フロアに「かかりつけ医ご紹介リーフレット」を掲示しご案内しています。また、地域医療連携室でもご案内していますのでお気軽にご相談下さい。



年 男 ・ 年 女



臨床検査技師
野村 公達

時が経つのは早いもので、横浜医療センターに転勤して約2年が経ちました。病院スタッフを始め多くの方々に支えられ3回目の年男を迎えられたことをうれしく思います。昨年一年を振り返ると目標に向かって努力してきたというよりは、新しい病院メンバーとして業務になれるのが精一杯で、あっという間に日々が過ぎて行ってしまったという印象でした。業務に慣れてきた今年は、「思い立ったが吉日・善は急げ」ということわざがあるように何事も思い立ったらすぐに動ける行動力を大切にしたいと思います。



診療放射線科技師
香取 有紀

横浜医療センターで働き始めて1年たちました。昨年は夜勤に入るために必要なCT検査やMRI検査をはじめ、マンモグラフィー検査などいろいろなモダリティーに携わることができました。私が特に苦労した検査は、マンモグラフィー検査です。痛みを伴う検査であるので、患者さんとのコミュニケーションが重要になります。先輩方に指導していただいたおかげで、患者さんとのコミュニケーションがうまく取れるようになり以前よりスムーズに検査を進められるようになりました。今後も患者さんとのコミュニケーションを大切に、気持ちよく検査を受けてもらえるように頑張っていきたいとおもいます。また、技術面でスキルアップできるように、先輩方の指導のもと励んでまいりますのでよろしくお願いいたします。



手術室看護師
川元 里美

平成26年4月に入職し、手術室へ配属となりました。1年目としてたくさんの先輩から時には厳しく、かつ優しく丁寧にご指導いただいています。手術室看護師としての仕事は看護学生時代にはあまり学ぶ機会がなかったため、手の洗い方、清潔なガウンの着方から医師へ手術器械の渡し方まで多くのことを学びました。徐々に自分の役割も増えていくと同時に責任感も感じています。

手術を受ける患者さんは不安が大きいため、患者さんの気持ちをくみ取り、少しでも不安の軽減に努めた、患者さんの立場に立った看護を提供しています。



集中管理部 臨床工学技士
大嶋 利彦

皆様こんにちは。神奈川県内の病院より横浜医療センターへ移り今年で5年目となります。

「MEさんって病院内でどういう仕事をしているの？」という声が聞こえてきそうですが、私達、ME（国家資格名は臨床工学技士です）の主な仕事は医師・看護師や各種の医療技術者とチームを組み人工心肺装置や血液透析装置等の生命維持管理装置の操作を担当しています。また、人工呼吸器や輸液ポンプ等、医療機器がいつでも安心して使用できるように保守・点検も行っています。

臨床工学技士は制度が誕生してから30年にも満たない比較的新しい医療職です。今後も専門性を活かした業務を行うようにしていきたいと思っています。



東4病棟(産科) 助産師
太田 弥生

横浜医療センターに助産師として就職して2年目となりました。昨年は30人の赤ちゃんの誕生の瞬間に立ち会うことができました。お産の介助は感動と同時に、2人の生命を自分が守らなければならないという重圧がありますが、相談できる先輩方の力を借りながら産婦さんに関わることができ、緊張感だけでなく助産師としてのやりがいを感じられるようになりました。

今年は年女という節目の年であり、1・2年目より判断力と行動力をもって患者さんに関われるよう、さらに勉強に励んでいきたいと思っています。また、自分があこがれた優しき的確なアドバイスができる先輩助産師になれるよう更なる飛躍の年にしていきたいです。

第6回 児童虐待対策チーム (CPT : Child Protect Team)

母子医療センター部長 鍋木 陽一



明けましておめでとうございます。
今回は児童虐待対策チームの紹介です。

2004年に改正された児童虐待防止法の第5条には、「児童福祉に職務上関係のある者は、虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し子どもの虐待の早期発見に努める義務があります。」と明記されました。病院の職員は皆、この義務を負っており、2006年に院内での虐待発見

ネットワークができました。また2010年に改正臓器移植法が施行され、臓器提供ができるドナーの年齢制限がなくなり、虐待による死亡事例は、臓器提供者から除外することが求められました。救命救急センターを持ち、臓器移植のドナーが生まれる可能性がある当院としては、正式に児童虐待対策委員会を発足させました。当初のメンバーは小児科部長を委員長に、脳神経外科・整形外科・救急科の各部長、外来看護師長、小児病棟看護師長、医療社会事業専門員（MSW）、医事専門職の8名で、後に妊娠中からの対策も必要とのことで産婦人科病棟師長、さらに精神科部長も加わりました。3か月に1回の委員会で、虐待疑いで児童相談所・福祉保健センターに通告または情報提供をした患者さんの経過を報告しています。さらに委員の中で、委員長と小児病棟師長、MSW、医事専門職の4名でコアメンバー（児童虐待対応チーム：CPT）を構成し、院内各所から疑い情報が入れば、遅くとも翌日までには主治医とCPTで、通告を含め病院としてはどう対応するかを決定します。ハイリスクの事例と考えられれば、児童相談所の担当者に院内に来ていただき検討会を行い、その時点で児童福祉法33条に従って乳児院などに一時保護となることもあります。

CPTの地域連携としては、2006年から地域の児童虐待の早期発見・早期対応を目的とした戸塚区子育てサポート連絡会に参加し、児童相談所や福祉保健センターをはじめ、保育園から中学校までの園長代表や養護教諭・生徒指導主任の先生代表、地域の主任児童相談員、さらには警察・消防も参加して、顔の見える連携体制を構築しています。

さらに、2013年11月からスタートした横浜市児童虐待防止医療ネットワーク（YCAPN）に、小児科医師・病棟師長・MSWが参加。横浜市内の小児拠点病院＋3次医療機関（こども病院と大学病院）のCPTが集まり、情報交換や勉強会をしています。

横浜医療センター児童虐待対策チームは、これからも顔の見える地域連携をめざして活動を続けていきたいと思っています。今後とも院内外の皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

お知らせコーナー

栄養管理室より～食生活の注意事項～

副栄養管理室長 須永 将広

年末年始はどのように過ごされましたでしょうか？ 普段とは生活のリズムや食生活が変わることも多く、体重が増えた方も多くいらっしゃると思います。まだまだ寒さも続きますので、以下の点に注意して、規則正しい食生活を送りましょう。

1. 食べ過ぎ、飲みすぎに気を付けましょう。

腹8分目を心がけ、お酒は飲みすぎないようにしましょう。

冬場は、厚着+暖房など体内の「水分」が失われる一方で、冷えてお手洗いが近くなることを避けるなど、水分補給が不足しがちです。水分補給を忘れずに。



2. よく噛んで、ゆっくり食べましょう。

よく噛んでゆっくり食べることで、食べ過ぎの防止にもつながります。

「おもち」は、のどにつかえると大変危険ですので、少しずつよく噛んで食べると良いでしょう。

「飲み込み」が気になる方は、特に注意しましょう。

3. バランスの良い食事にしましょう。

おせち料理は、たんぱく質を多く含む食品が多くなりがちです。肉・魚・卵・大豆製品は、たんぱく質を多く含む食品の代表的なものですが、これらの食べ過ぎは「腎臓」の負担となる場合があります。一方で、これらの摂取量が少ないと「栄養状態の低下」も懸念されますので、自身の体や病状に応じて適切に摂取することが重要です。

また、おせち料理は、塩分を多く含む食材や料理が多いので、「塩分の摂り過ぎ」にご注意下さい。

4. 運動不足に気を付けましょう。

冬場は屋内でゆっくり過ごしたり、また、寒いと家から出るのが「おっくう」になったりと、活動量が低下しがちです。体重の増加や便秘などを防ぐためにも、動く・歩くことを意識するようにしましょう。

5. 手洗い・うがいなど、体調管理に気を付けましょう。

冬場は、インフルエンザやノロウイルスなどを予防するためにも、手洗いやうがいを心がけるようにしましょう。

平成27年1月1日～

	診療科・曜日	月	火	水	木	金	備 考
外来受付 A	小児科	鈴木 陽一 内田 理 雪澤 綾	福山 綾子 西山 邦幸 休診日(手術日)	小林 慈典 大杉 康司 松丸 佳世	鈴木 陽一 矢竹 曜子 中山 彰	塩谷 裕美 宮沢 啓貴 真館 雅文	※木曜日は予約患者のみ(新患受付無し)
	心臓血管外科 形成外科	益子原 幸宏	休診日(手術日)	休診日(手術日)	休診日(手術日)	休診日(手術日)	
	整形外科	瀬上 秀威 伊藤 りえ 仲 拓磨	日塔 寛昇 石ヶ坪 諒 日野 勝利	瀬上 秀威 高 倫浩 仲 拓磨	日塔 寛昇 上條 晃 伊藤 りえ	石ヶ坪 諒 高 倫浩 ★日塔 寛昇	
	総合内科外来	交代医師 重松 絵理奈 ■小松 裕美子	交代医師 重松 絵理奈	交代医師 宇治原 誠 ◎藤井 聖絵	交代医師 宇治原 誠	交代医師 小松 裕美子	
外来受付 B	神経内科	森原 啓介	山崎 舞子 ■國井 美紗子	上木 英人	岡本 光生 ■室橋 洋子	高橋 竜哉	◎:Aブロックで診察。午前のみ。 ■:午後の予約のみ ▼:Aブロックで診察。 初診には紹介状が必要。 ※火曜日は予約患者のみ(新患受付無し)
	腎臓内科	松下 啓	中野 雅友樹	小宮 麻里子	休診日(検査日)	須藤 成人	
	呼吸器内科	後藤 秀人 ■榎原 基史	▼榎原 基史	小嶋 亮太 ■須藤 成人	休診日(検査日)	■小嶋 亮太	
	消化器内科	交代医師(初診) 塩原 康正	田村 優子(初診)	小松 達司(初診)	松島 昭三(初診)	交代医師(初診)	
	循環器内科	森 文章 網代 洋一	田村 優子(初診)	小松 達司(初診)	野登 はるか ■小松 達司	小松 達司 松島 昭三 岩出 和徳 ■森田 紗恵	
	リウマチ科	出口 治子	※宮城 理美子 ■出口 治子	休診日 (検査日)	宮城 理美子 ■出口 治子	出口 治子 ■宮城 理美子	
	外科・消化器外科	清水 哲也 小笠原 康夫 和田 朋子	関戸 仁 松田 悟郎 平谷 清吾 齊藤 修治 ※太田 郁子	松田 悟郎 関戸 仁 松田 悟郎 齊藤 修治 和田 朋子	松田 悟郎 関戸 仁 松田 悟郎 齊藤 修治 和田 朋子	休診日 (手術日)	
	呼吸器外科		五来 厚生 野間 大督 交代医師①	交代医師②	五来 厚生 野間 大督	坂本 和裕 野間 大督 藤澤 和彦 市川 輝夫	
	脳神経外科	休診日 (手術日)	手術日	◇脳ドック	休診日 (手術日)		
	麻酔科(ペイン・緩和)	交代医師		田澤 利治	小川 賢一		
	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	○佐々木 祐幸 手術日	
	眼科	木村 正彦 内匠 秀尚	木村 正彦 内匠 秀尚	木村 正彦 内匠 秀尚	木村 正彦 内匠 秀尚	休診日 (手術日)	
	泌尿器科	奥野 紀彦 大山 哲平 宮田 聡子	奥野 紀彦 若田部 陽司 宮田 聡子	休診日 (手術日)	奥野 紀彦 若田部 陽司 宮田 聡子	高田 治子 大山 哲平 宮田 聡子	
	皮膚科	船津 栄	船津 栄	船津 栄	船津 栄	船津 栄	
外来受付 C	心療内科	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	※月～金:初診の方は9時30分までに受付を済ませてください。(要紹介状、1日1名の予約制) 初診は左記の再診医以外に医師が診察します。詳細は精神科外来にお尋ねください。
	精神科	鈴木 将裕	大橋 茉莉子 戸代原 奈央	古野 拓	吉田 晴久	土屋 美江 許 博陽	
	婦人科	若林 玲南	奥田 美加	窪田 興志	高山 智子 (美杉 輝彦)	鈴木 理絵	
	産科	太田 幸秀	鈴木 理絵	奥田 美加 入院手術日 (再診)	中口 芳恵	若林 玲南	
外来受付 D	産科	根岸 明秀 (再診のみ)	根岸 明秀 赤津 千絵 (午前初診・午後再診)	※急患はご連絡 ください。	根岸 明秀 赤津 千絵 (午前初診・午後再診)	根岸 明秀 赤津 千絵 (再診のみ)	初診は、火・木曜日8:30～11:00、初診急患は随時受付(紹介状から直接連絡 ください)。再診は完全予約制。再診急患は電話をお願いします。 初診:紹介状又は診療情報提供書を持参してください。 詳細については産科・産科部長にお問い合わせてください。
	産科						
	産科						
	産科						
専門外来 (予約制)	小児科	アレルギー検査 シナリス(9～4月)(矢竹) 感染免疫・アレルギー (小林)	腎臓外来(③) フォローアップ外来(矢竹) アレルギー(鈴木) アレルギー(山崎) 内分泌(⑤)	アレルギー(塩谷) アレルギー(宮地) 予防接種(交代制) 13:30-14:30 循環器外来 (鈴木)(月1回)	フォローアップ外来 (福山) 1ヵ月健診(交代医師) 1ヵ月健診 (交代医師)	アレルギー(内 田) 神経外来(④) 循環器外来(鈴木)	③:第1・3週(火)長濱 ④:第1・3・5週(金)本井 ⑤:第2・4週(月)内分泌 大杉 ⑥毎週14:00～15:00(地域連携室を通しての完全予約制) ⑦毎週15:00～16:00、⑧毎週14:30～15:30 地域連携室を通して完全予約制 ⑨第2・4週(頭痛外来)、第1・3・5週(摂食・嚥下外来)
	整形外科		骨格外来(⑥) スポーツ整形外科(⑦)	手外科(⑧)	骨格外来(⑥) スポーツ整形外科(⑦)		
	神経内科		⑨頭痛外来 摂食・嚥下外来 物忘れ外来				
	糖尿病内分泌内科	糖尿病連携バス外来		糖尿病連携バス外来			
	腎臓内科	腹膜透析外来		腹膜透析外来	腹膜透析外来		
	感染症内科		感染症外来				
	看護部						
	外科		スキンケア外来 ※乳がん検診	スキンケア外来			
	心臓血管外科	血管外来				大動脈瘤・ステ ントグラフト外来	
	耳鼻咽喉科				補聴器外来(午後)		
	皮膚科	血管炎外来					
	循環器科			ハースマーカ外来	睡眠時無呼吸 症候群外来		
	精神科	物忘れ外来 助産師外来 母乳外来(午後) ▽母親教室	物忘れ外来 助産師外来 母乳外来(午後)	助産師外来	助産師外来 母乳外来(午後)	物忘れ外来 助産師外来 母乳外来(午後)	
	産婦人科						
	呼吸器外科						
	放射線科	海津 久		向井 佑希	榎多 政治		
	病理診断科	※	※	※	※	※	

初 診 受 付: 平日 8:30～10:00
再 診 (予約外) 受付: 平日 8:30～10:00
休 診 日: 土曜・日曜・祝日・12月29日～1月3日
地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

お知らせ 色つき部分が変更箇所となります。ご確認の上受診ください。

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

◆編集後記◆

今年は十二支の中で第8番目の未年です

8は末広がりです。幸運の数とされています。一見大人しく従順、集団行動を好み、じっと周りの行動を観察しどう動くべきか考えている。これが、ひつじ年が持つ基本性格だそうです。今年は、非公務員化に伴う課題を認識して次役を見通すことが大切ですね。(S. H)